

USEFUL PRINTING INFORMATION

印刷に関する用語、こぼれ話、業界のトレンドなどの情報を毎号ご紹介していきます。

SEZAX

M O N T H L Y **vol.137** U P

間違いのない印刷・製本のために

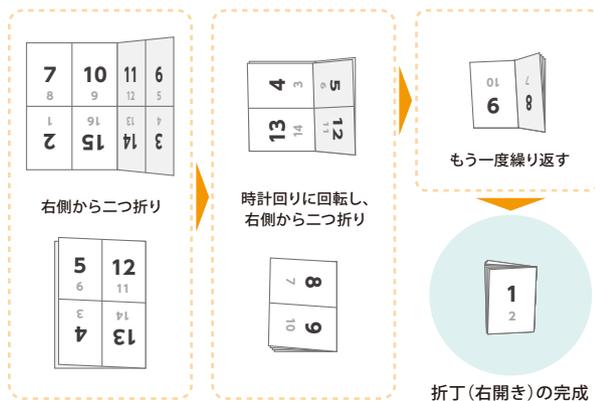
「折丁」と「面付け」、 本作りには欠かせない工程。

何百ページもある分厚い辞書や書籍、カタログなど、なぜページの順番を間違えないのか。
そう疑問に思ったことはありませんか。間違いなく印刷・製本するための鍵、それが「折丁」と「面付け」なのです。

ご存知のように書籍や雑誌、カタログなどは、1ページ単位で印刷するわけではありません。印刷機で大判の用紙に8、16、32といった複数ページをまとめて印刷します。たとえばA4サイズの冊子をA全判で印刷する場合、表裏で16ページ分の印刷が可能です。この印刷されたシートを、製本工程でページ順に折りたたみます。こうして折りたたんだ印刷シートを「折丁（または折本）」と呼びます。印刷シートの折り方は、16ページの八つ折りの他、二つ折り、三つ折り、四つ折りなど、本の仕様によってさまざまです。そして折丁にした際、各ページの順序が正しく並ぶように配置することを「面付け」と言います。現在では、面付けソフトを利用するケースがほとんどですが、間違いがないように折丁見本を作ることもあります。この見本も「折丁」と呼び、白紙1枚あれば誰でも作ることが可能です。

● 代表的な折丁の作り方

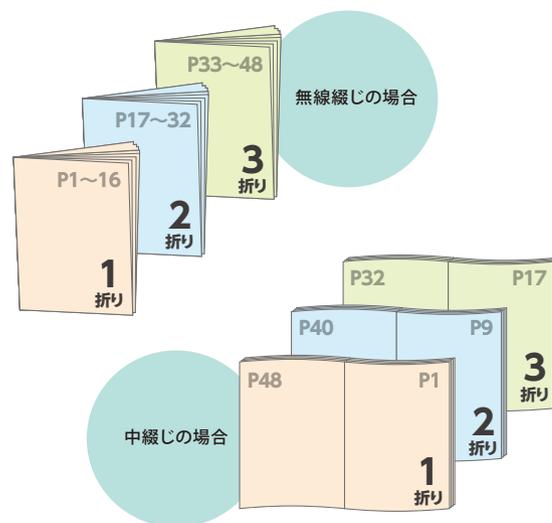
用紙を時計回りに90度ずつ回転させながら折っていく「廻し折り」「時計折り」が一般的。折り上がったら、ノンブルを記入して折丁見本を完成させます。なおノンブルを記入する際、印刷物が左開き（横組み）の場合は天袋（袋の部分が上）、右開き（縦組み）の場合は地袋（袋部分が下）になります。



※薄い色の数字は裏面のノンブルです。

● 無線綴じと中綴じの折丁

無線綴じと中綴じでは、丁合方法（重ね方）が違います。無線綴じは折丁をそのまま重ねて閉じますが、中綴じは折丁を開いて重ねていきます。したがって面付けがまったく異なるので注意が必要です。



その他、平台印刷と輪転印刷の違いによっても折丁や面付けは異なります。印刷物の制作中に仕様が変わるケースもあるため、手配には気をつける必要があります。折丁について詳しいことが知りたいという方は、弊社営業までお気軽にご相談ください。



No.I290-ISO/IEC 27001
No.E2204-ISO14001 (本社・下丸子工場)
No.4412-ISO9001 (本社・下丸子工場)



SEZAX

セザックス株式会社

<http://www.sezax.co.jp>

<input type="checkbox"/> 本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2511 (代)
<input type="checkbox"/> 渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1渋谷オミビル6F 5F	TEL 03 (3400) 9211 (代) TEL 03 (3400) 9401 (代)
<input type="checkbox"/> 下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03 (3758) 2516 (代)

株式会社セザックスクリエイティブ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970 (代)

株式会社セザックスドキュメントソリューションズ

〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7 TEL 03 (3758) 2533 (代)

この小冊子は森林認証紙を使用しています。